

不二製油グループ本社（株） 決算補足資料

2023年度（2024年3月期）

- 第3四半期 -

ページ	項目
1	表紙
2	0-1： 注記 / 為替情報
3	1-1： 2023年度 連結業績 3Q（3ヶ月）
4	1-2： 2023年度 連結業績 3Q累計
5	1-3： 2023年度 連結業績 3Q累計（事業別・所在地別マトリクス）
6	2-1： 主な指標
7	3-1： 2023年度 連結業績予想
8	3-2： 2023年度 連結業績予想（事業別・所在地別マトリクス）

0-1 : 注記 / 為替情報

注記情報

一部子会社の決算期変更について

2022年度期末におきまして、下記のとおり子会社の決算期の変更を行いました。

INDUSTRIAL FOOD SERVICES PTY LIMITEDは12月末から3月末に、

Blommer Chocolate Manufacturing (Shanghai) Co., Ltd. (ブラマー上海) は1月末から3月末にそれぞれ変更しております。

なお、連結決算に与える影響は軽微なため、前期比などの数値の修正は行っておりません。

会社名	所在国	事業セグメント	エリア区分	2022年度の決算期間	2023年度の決算期間
INDUSTRIAL FOOD SERVICES PTY LIMITED	豪州	業務用チョコレート	東南アジア	2022年1月～ 2023年3月(15ヵ月)	2023年4月～ 2024年3月(12ヵ月)
Blommer Chocolate Manufacturing (Shanghai) Co., Ltd. (ブラマー上海)	中国	業務用チョコレート	中国	2022年2月～ 2023年3月(14ヵ月)	2023年4月～ 2024年3月(12ヵ月)

ブラマーに係る特別損失計上について

2023年度第3四半期において、業務用チョコレート事業・米州のBlommer Chocolate Company (以下ブラマー) に係るのれんの減損損失* 64億円及び、有形固定資産の減損損失37億円の合計101億円(71百万米ドル) を特別損失に計上しました。

* 本資料上の「のれんの減損損失」は、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(日本公認会計士協会 会計制度委員会報告第7号 2022年10月28日) 第32項の規定に基づき、子会社株式の減損処理に伴ってのれんを追加的に償却したものを指す。

主な為替レート

・P/L : 期中平均レート、B/S : 期末レート

		2022年度	2022年度	2023年度	前期比		2023年度 予想前提
		3Q	期末	3Q	差	増減率	
\$	P/L	136.51	135.47	143.29	+6.78	+5.0%	142.70
	B/S	132.70	133.53	141.83	+8.30	+6.2%	-
BRL	P/L	26.55	26.28	29.08	+2.53	+9.5%	29.10
	B/S	25.43	26.29	29.30	+3.01	+11.4%	-
€	P/L	140.59	140.97	155.29	+14.70	+10.5%	155.70
	B/S	141.47	145.72	157.12	+11.40	+7.8%	-
人民元	P/L	19.88	19.75	19.98	+0.10	+0.5%	19.80
	B/S	19.01	19.42	19.93	+0.51	+2.6%	-

・P/Lは前年同期、B/Sは前年度期末(2022年度期末)を比較

・2023年度3Qのブラマーに適用した為替レート(\$)は、P/L 140.25、B/S 149.96

・予想前提P/Lレートは、2024年2月に見直した数値

1-1： 2023年度 連結業績 3Q（3ヶ月）

●業績概要

売上高 1,505億円（前年同期比+22億円）、営業利益 41億円（前年同期比+4億円）

売上高：植物性油脂事業での主原料であるパーム油価格の下落による販売価格の低下や、フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による売上高の減少があったものの、業務用チョコレート事業での原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇や為替円安等により増収。
 営業利益：業務用チョコレート事業の米国における菓子市場の需要停滞に伴う販売数量減少や固定費の増加があったものの、植物性油脂事業の米州、欧州での採算性の改善や乳化・発酵素材事業の日本でのクリームの販売伸長により増益。

（単位：億円）

	FY2022 3Q実績	FY2023 3Q実績	前年同期比 増減額	増減要因(前年同期比)	
売上高	植物性油脂	523	469	▲54	主原料であるパーム価格の下落に伴う販売価格の低下やフジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による売上高の減少により減収。
	業務用チョコレート	619	701	+82	原料価格上昇に伴う販売価格の上昇やブラジルや欧州での販売数量の増加、為替円安の影響により増収。
	乳化・発酵素材	252	243	▲9	東南アジア及び中国での販売数量の減少や原材料価格の下落に伴う販売価格の下落により減収。
	大豆加工素材	89	92	+3	円安による原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇により増収。
	合計	1,483	1,505	+22	
営業利益	植物性油脂	19	42	+23	米州、欧州での採算性の改善及び、フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による前年同期(営業損失)からの改善により増益。
	業務用チョコレート	14	▲10	▲24	日本、東南アジア、欧州では販売数量が増加した一方、米国における菓子市場の需要低迷に伴う販売数量の減少や原材料価格高騰に伴う採算性の悪化、固定費等の増加により減益。
	乳化・発酵素材	9	16	+7	日本でのクリーム等の販売数量の増加及び、中国の採算性の改善により増益。
	大豆加工素材	4	3	▲1	欧州新工場の稼働による減価償却費の増加により減益。
	グループ管理費用等	▲9	▲10	▲1	
	合計	37	41	+4	
営業利益率	2.5%	2.7%	+0.2pt		
経常利益	30	33	+3		
親会社株主に帰属する四半期純利益	18	▲74	▲92	業務用チョコレート事業でのブラマーに係る特別損失により大幅減益。	

*上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。

1-2： 2023年度 連結業績 3Q累計

● 業績概要

売上高 4,215億円（前年同期比+49億円）、営業利益 129億円（前年同期比+41億円）

売上高：植物性油脂事業での主原料であるパーム油価格の下落による販売価格の低下や、フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による売上高の減少があったものの、業務用チョコレート事業での原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇や為替円安等により増収。
 営業利益：業務用チョコレート事業の米国における菓子市場の需要停滞に伴う販売数量減少や固定費の増加があったものの、植物性油脂事業での日本、米州、欧州での採算性の改善等により増益。

(単位：億円)

		FY2022 3Q累計	FY2023 3Q累計	前年同期比 増減額	増減要因(前年同期比)
売上高	植物性油脂	1,537	1,397	▲140	主原料であるパーム価格の下落に伴う販売価格の低下やフジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による売上高の減少により減収。
	業務用チョコレート	1,674	1,868	+193	原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇や、ブラジルや欧州での販売数量増加、為替円安の影響等により増収。
	乳化・発酵素材	698	679	▲19	東南アジア及び中国での販売数量の減少や原材料価格の下落に伴う販売価格の下落により減収。
	大豆加工素材	258	272	+14	円安による原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇により増収。
	合計	4,167	4,215	+49	
営業利益	植物性油脂	52	117	+65	日本、米州、欧州での原材料価格の安定に伴う採算性の改善及び、フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による前年同期(営業損失)からの改善により増益。
	業務用チョコレート	41	▲3	▲44	日本、東南アジア、欧州では販売数量が増加した一方、米国における菓子市場の需要低迷に伴う販売数量の減少や原材料価格高騰に伴う採算性の悪化、固定費等の増加により減益。
	乳化・発酵素材	9	30	+21	日本でのクリーム等の販売数量の増加及び、東南アジアや中国の採算性の改善により増益。
	大豆加工素材	13	13	▲1	欧州新工場の稼働による減価償却費の増加により減益。
	グループ管理費用等	▲28	▲29	▲0	
	合計	88	129	+41	
営業利益率		2.1%	3.1%	+1.0pt	
経常利益		84	116	+33	
親会社株主に帰属する四半期純利益		51	50	▲1	植物性油脂事業でのフジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による特別利益を計上も、業務用チョコレート事業でのブラマーに係る特別損失により減益。

*上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。

1-3 2023年度 連結業績 3Q累計 (事業別・所在地別マトリクス)

売上高

(単位：百万円)

	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
植物性油脂	FY2023 3Q	43,316	+1,154	48,389	▲11,391	18,683	▲5,589	2,453	▲240	26,836	+2,087	139,679	▲13,979
	FY2022 3Q	42,162	+10,142	59,781	+29,432	24,273	+9,735	2,693	+467	24,748	+7,449	153,659	+57,223
	FY2021 3Q	32,020	-	30,349	-	14,538	-	2,226	-	17,299	-	96,435	-
業務用チョコレート	FY2023 3Q	34,339	+2,861	125,161	+11,944	14,523	+2,567	5,667	+239	7,059	+1,696	186,752	+19,310
	FY2022 3Q	31,478	+1,821	113,215	+22,271	11,955	+3,155	5,428	+506	5,363	+1,866	167,441	+29,618
	FY2021 3Q	29,657	-	90,944	-	8,800	-	4,922	-	3,497	-	137,822	-
乳化・発酵素材	FY2023 3Q	44,756	+988	-	-	10,574	▲1,746	12,553	▲1,164	-	-	67,884	▲1,922
	FY2022 3Q	43,768	+4,584	-	-	12,320	+3,894	13,718	+1,842	-	-	69,807	+10,318
	FY2021 3Q	39,184	-	-	-	8,426	-	11,876	-	-	-	59,488	-
大豆加工素材	FY2023 3Q	26,623	+1,641	-	-	-	-	598	▲198	0	+0	27,222	+1,443
	FY2022 3Q	24,981	+389	-	-	-	-	797	▲799	-	-	25,779	▲410
	FY2021 3Q	24,592	-	-	-	-	-	1,596	-	-	-	26,189	-
売上高計	FY2023 3Q	149,036	+6,646	173,550	+553	43,781	▲4,768	21,273	▲1,364	33,896	+3,784	421,538	+4,851
	FY2022 3Q	142,390	+16,935	172,997	+51,703	48,550	+16,784	22,637	+2,015	30,111	+9,315	416,687	+96,750
	FY2021 3Q	125,455	-	121,294	-	31,766	-	20,622	-	20,796	-	319,936	-

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益

	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
植物性油脂	FY2023 3Q	4,457	+1,741	3,421	+4,141	1,307	▲1,485	4	+165	2,409	+1,736	141	+200	-	-	11,742	+6,499
	FY2022 3Q	2,716	▲326	▲719	▲975	2,793	+1,316	▲161	▲152	672	▲193	▲59	▲93	-	-	5,242	▲422
	FY2021 3Q	3,042	-	256	-	1,477	-	▲9	-	865	-	34	-	-	-	5,665	-
業務用チョコレート	FY2023 3Q	4,758	+523	▲6,750	▲5,825	978	+627	131	+106	577	+250	37	▲39	-	-	▲266	▲4,357
	FY2022 3Q	4,234	▲584	▲925	▲801	351	+27	25	▲76	326	+224	77	+60	-	-	4,090	▲1,150
	FY2021 3Q	4,818	-	▲124	-	324	-	101	-	102	-	17	-	-	-	5,241	-
乳化・発酵素材	FY2023 3Q	2,794	+998	-	-	▲195	+429	396	+652	-	-	8	▲13	-	-	3,003	+2,066
	FY2022 3Q	1,795	+218	-	-	▲624	▲68	▲256	▲703	-	-	21	▲159	-	-	936	▲712
	FY2021 3Q	1,577	-	-	-	▲556	-	447	-	-	-	180	-	-	-	1,648	-
大豆加工素材	FY2023 3Q	1,553	+280	-	-	-	-	221	▲12	▲557	▲350	51	+12	-	-	1,268	▲69
	FY2022 3Q	1,272	▲775	-	-	-	-	233	▲22	▲206	+25	38	+7	-	-	1,337	▲764
	FY2021 3Q	2,047	-	-	-	-	-	255	-	▲231	-	31	-	-	-	2,102	-
連結調整	FY2023 3Q	96	▲22	▲18	▲5	2	+15	▲5	▲26	72	+163	▲156	▲117	-	-	▲9	+8
	FY2022 3Q	118	+14	▲13	▲15	▲13	▲12	21	+15	▲91	▲88	▲38	+70	-	-	▲17	▲17
	FY2021 3Q	104	-	2	-	▲1	-	6	-	▲3	-	▲108	-	-	-	-	-
グループ管理費用	FY2023 3Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,841	▲26
	FY2022 3Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,814	▲79
	FY2021 3Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,735	-
営業利益計	FY2023 3Q	13,659	+3,521	▲3,347	▲1,689	2,093	▲413	748	+885	2,501	+1,800	82	+43	▲2,841	▲26	12,897	+4,121
	FY2022 3Q	10,137	▲1,453	▲1,657	▲1,791	2,506	+1,262	▲136	▲936	701	▲32	38	▲116	▲2,814	▲79	8,776	▲3,147
	FY2021 3Q	11,590	-	134	-	1,244	-	800	-	733	-	154	-	▲2,735	-	11,923	-

2-1:主な指標

大項目	項目	単位	備考	2021	2022	2023(累計実績)				2023 期初予想
						1Q	2Q	3Q	4Q	
PL項目	営業利益	億円		150	109	36	88	129		165
	営業利益成長率	%		▲16.2%	▲27.1%	+51.0%	+73.7%	+47.0%		+50.8%
	EBITDA	億円		324	312	86	189	347		365
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	173	215	36	70	111		-
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	127	146	36	72	110	*2	-
	ROA	%	経常利益÷総資産	3.7%	2.2%	2.7%	3.4%	3.3%		3.3%
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率 ×財務レバレッジ	6.6%	3.1%	17.0%	11.4%	3.1%		7.6%
	売上高純利益率	%	当期純利益÷売上高	2.7%	1.1%	6.9%	4.6%	1.2%		2.9%
	総資産回転率	回	売上高÷総資産	1.12	1.26	1.09	1.12	1.18		1.21
	財務レバレッジ	倍	総資産÷自己資本	2.2	2.3	2.2	2.2	2.2		2.0
ROIC	%	営業利益×(1-法人税率)÷(有利子負債+自己資本)	3.1%	2.0%	2.5%	3.0%	3.2%		3.3%	
BS項目	総資産	億円		4,166	4,688	4,961	5,034	4,830		4,400
	有利子負債	億円		1,488	1,684	1,752	1,691	1,564		1,270
	NET有利子負債	億円		1,328	1,494	1,355	1,409	1,291		1,120
	NET運転資本	億円		805	819	1,173	1,235	1,197		-
	自己資本比率	%		44.7%	43.3%	45.2%	46.2%	46.0%		50.1%
	負債比率	%		121.9%	127.1%	116.3%	111.6%	112.2%		94.8%
	のれん(広義)	億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、 その他無形固定資産等を含んだもの	499	552	578	584	525	*3	529
	のれん償却額	億円		22	26	7	13	21		26
	のれん(広義)純資産比率	%		26%	26%	25%	24%	22%		23%
	D/Eレシオ	倍	有利子負債÷自己資本	0.80	0.83	0.78	0.73	0.70		0.58
Net D/Eレシオ	倍	Net有利子負債(有利子負債-現預金) ÷株主資本	0.73	0.80	0.70	0.71	0.69		0.56	
CF項目	営業キャッシュフロー	億円		35	76	▲21	▲16	195		400
	投資キャッシュフロー	億円		▲188	▲165	198	164	119		20
	フリーキャッシュフロー	億円		▲153	▲89	177	148	314		420
	財務キャッシュフロー	億円		94	98	10	▲69	▲235		▲460
	CCC	日		115	104	122	117	103		98

*1 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。

*2 FY2023.1Q、2Q、3QのROA、ROE、ROIC：年間換算した参考値を記載。

*3 プラマーに係るのれんの減損損失64億円は除く。

※主な設備投資

年度	主な投資項目	億円
2023	日本 製造設備向け等	36
3Q累計	米州 プラマー設備投資等	25
	米州 ハラルド第2工場建設等	12
	計	111

株主還元

株主還元方針

- ・配当性向30-40%
- ・安定かつ継続的な配当の実施

1株当たりの配当金の推移 (単位：円)

年度	中間配当	期末配当	合計	配当性向
2015	17	18	35	32.6%
2016	22	22	44	31.2%
2017	23	25	48	30.0%
2018	25	25	50	37.1%
2019	27	29	56	29.4%
2020	26	26	52	40.6%
2021	26	26	52	38.9%
2022	26	26	52	73.0%
2023 予想	26	26	52	68.8%

3-1： 2023年度 連結業績予想

●業績概要

売上高 5,500億円（前期比▲74億円）、営業利益 165億円（前期比+56億円）

売上高：業務用チョコレート事業での原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇や為替円安等があるものの、植物性油脂事業での主原料であるパーム油価格の下落による販売価格の低下や、フジオイルニューオリズズの固定資産譲渡による売上高の減少により減収を計画。
 営業利益：業務用チョコレート事業の米国における菓子市場の需要停滞に伴う販売数量減少や固定費の増加があるものの、植物性油脂事業での日本、米州、欧州での採算性の改善等により増益を計画。

(単位：億円)

	FY2022 実績	FY2023 修正予想 (24年2月)	増減額 FY23修正予想(24年2月) VS FY22実績	FY2023 修正予想 (23年11月)	増減額 FY23修正予想(24年2月) VS FY23修正予想(23年11月)	増減要因(前期比)
売上高	植物性油脂	2,034	▲232	1,809	▲7	主原料であるパーム価格の下落に伴う販売価格の低下やフジオイルニューオリズズの固定資産譲渡による売上高の減少により減収を計画。
	業務用チョコレート	2,285	+179	2,434	+30	原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇や、ブラジルや欧州での販売数量増加、円安の影響等により増収を計画。
	乳化・発酵素材	912	▲34	888	▲10	東南アジア及び中国での販売数量の減少や原材料価格の下落に伴う販売価格の下落により減収を計画。
	大豆加工素材	343	+13	369	▲13	円安による原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇により増収を計画。
	合計	5,574	▲74	5,500	-	
営業利益	植物性油脂	70	+74	115	+29	日本、米州、欧州での原材料価格の安定に伴う採算性の改善及び、フジオイルニューオリズズの固定資産譲渡による前期(営業損失)からの改善により増益を計画。
	業務用チョコレート	50	▲32	55	▲37	日本、東南アジア、欧州では販売数量が増加する一方、米国における菓子市場の需要低迷に伴う販売数量の減少や原材料価格高騰に伴う採算性の悪化、固定費等の増加により減益を計画。
	乳化・発酵素材	15	+18	29	+4	日本でのクリーム等の販売数量の増加及び、東南アジアや中国の採算性の改善により増益を計画。
	大豆加工素材	13	▲2	9	+3	欧州新工場の稼働による減価償却費の増加により減益を計画。
	グループ管理費用等	▲38	▲41	▲3	▲42	+1
合計	109	+56	165	-		
営業利益率	2.0%	3.0%	+1.0pt	3.0%	-	
経常利益	97	+53	150	-		
親会社株主に帰属する当期純利益	61	+4	65	▲95	業務用チョコレート事業でのブラマーに係る特別損失を計上も、植物性油脂事業でのフジオイルニューオリズズの固定資産譲渡による特別利益等により増益を計画。	

*上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。

3-2 2023年度 連結業績予想（事業別・所在地別マトリクス）

売上高

（単位：百万円）

	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	
植物性油脂	2023 修正予想(24年2月)	56,400	▲32	63,700	▲15,517	23,000	▲7,858	3,100	▲274	34,000	+436	180,200	▲23,248
	2023 修正予想(23年11月)	55,800	▲632	66,000	▲13,217	22,000	▲8,858	3,100	▲274	34,000	+436	180,900	▲22,548
	2022 実績	56,432	-	79,217	-	30,858	-	3,374	-	33,564	-	203,448	-
業務用チョコレート	2023 修正予想(24年2月)	44,600	+2,352	166,700	+13,376	19,500	+1,332	6,600	▲867	9,000	+1,696	246,400	+17,887
	2023 修正予想(23年11月)	44,600	+2,352	163,000	+9,676	20,000	+1,832	6,600	▲867	9,200	+1,896	243,400	+14,887
	2022 実績	42,248	-	153,324	-	18,168	-	7,467	-	7,304	-	228,513	-
乳化・発酵素材	2023 修正予想(24年2月)	58,500	+803	-	-	12,800	▲3,271	16,500	▲895	-	-	87,800	▲3,364
	2023 修正予想(23年11月)	57,800	+103	-	-	13,500	▲2,571	17,500	+105	-	-	88,800	▲2,364
	2022 実績	57,697	-	-	-	16,071	-	17,395	-	-	-	91,164	-
大豆加工素材	2023 修正予想(24年2月)	34,700	+1,452	-	-	-	-	900	▲135	0	+0	35,600	+1,316
	2023 修正予想(23年11月)	36,000	+2,752	-	-	-	-	899	▲136	1	+1	36,900	+2,616
	2022 実績	33,248	-	-	-	-	-	1,035	-	-	-	34,284	-
売上高計	2023 修正予想(24年2月)	194,200	+4,573	230,400	▲2,142	55,300	▲9,797	27,100	▲2,173	43,000	+2,131	550,000	▲7,410
	2023 修正予想(23年11月)	194,200	+4,573	229,000	▲3,542	55,500	▲9,597	28,099	▲1,174	43,201	+2,332	550,000	▲7,410
	2022 実績	189,627	-	232,542	-	65,097	-	29,273	-	40,869	-	557,410	-

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益

	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比		
植物性油脂	2023 修正予想(24年2月)	5,482	+1,532	3,927	+4,865	2,026	▲933	▲49	+138	2,872	+1,489	142	+287	-	-	14,399	+7,378
	2023 修正予想(23年11月)	4,408	+458	3,293	+4,231	1,814	▲1,145	▲157	+30	2,089	+706	27	+172	-	-	11,474	+4,453
	2022 実績	3,950	-	▲938	-	2,959	-	▲187	-	1,383	-	▲145	-	-	-	7,021	-
業務用チョコレート	2023 修正予想(24年2月)	5,784	+155	▲6,217	▲4,191	1,332	+450	148	+110	637	+262	45	▲28	-	-	1,728	▲3,245
	2023 修正予想(23年11月)	5,137	▲492	▲1,269	+757	1,255	+373	▲197	▲235	503	+128	28	▲45	-	-	5,457	+484
	2022 実績	5,629	-	▲2,026	-	882	-	38	-	375	-	73	-	-	-	4,973	-
乳化・発酵素材	2023 修正予想(24年2月)	3,017	+854	-	-	▲98	+334	399	+584	-	-	16	+70	-	-	3,334	+1,844
	2023 修正予想(23年11月)	2,443	+280	-	-	38	+470	419	+604	-	-	32	+86	-	-	2,932	+1,442
	2022 実績	2,163	-	-	-	▲432	-	▲185	-	-	-	▲54	-	-	-	1,490	-
大豆加工素材	2023 修正予想(24年2月)	1,539	+193	-	-	-	-	318	+34	▲793	▲417	61	+39	-	-	1,125	▲152
	2023 修正予想(23年11月)	1,249	▲97	-	-	-	-	363	+79	▲794	▲418	37	+15	-	-	855	▲422
	2022 実績	1,346	-	-	-	-	-	284	-	▲376	-	22	-	-	-	1,277	-
連結調整	2023 修正予想(24年2月)	96	▲62	▲19	▲11	2	+54	▲5	▲21	72	+205	▲156	▲146	-	-	▲9	+21
	2023 修正予想(23年11月)	-	▲158	-	+8	-	+52	-	▲16	-	+133	-	+10	-	-	-	+30
	2022 実績	158	-	▲8	-	▲52	-	16	-	▲133	-	▲10	-	-	-	▲30	-
グループ管理費用	2023 修正予想(24年2月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,077	▲285	▲4,077	▲285
	2023 修正予想(23年11月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,218	▲426	▲4,218	▲426
	2022 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,792	-	▲3,792	-
営業利益計	2023 修正予想(24年2月)	15,918	+2,671	▲2,309	+664	3,262	▲94	811	+844	2,788	+1,540	107	+221	▲4,077	▲285	16,500	+5,560
	2023 修正予想(23年11月)	13,237	▲10	2,024	+4,997	3,107	▲249	428	+461	1,798	+550	124	+238	▲4,218	▲426	16,500	+5,560
	2022 実績	13,247	-	▲2,973	-	3,356	-	▲33	-	1,248	-	▲114	-	▲3,792	-	10,940	-

不二製油グループ本社（株） IR参考資料

2023年度 (2024年3月期)

- 第3四半期 -

ページ	項目
9	表紙
10	FY2023 3Q Pickup : 各エリアのマーケットの状況と販売動向
11	IR補足① : 主要製品群の販売数量推移 (前年同期比)
12	IR補足② : 主要原料チャート (2024年1月末まで)
13	IR補足③ : 主なトピックス、ピックアップ

FY2023 3Q Pickup : 各エリアのマーケットの状況と販売動向

エリア	3Q（2023年10-12月）マーケット状況と販売動向
日本	業務用チョコレート ・人流回復により土産市場向けは堅調な推移。 ・秋口の気温が高く、冷菓の販売は好調に推移。
	乳化・発酵素材 ・コンビニエンスストア向けの洋菓子や外食チェーン向けにクリームの販売が堅調に推移。
	大豆加工素材 ・大豆たん白素材は、中食向けが回復し前年同期比では増加。 ・大豆たん白食品は、量目減の影響により宅配向けの販売数量の減少が続く。
米国	植物性油脂 ・チョコレート用油脂は、低価格帯の流通菓子向けの販売が伸長。
	業務用チョコレート(3Q:2023年8月-2023年10月) ・インフレにより、チョコレート菓子市場の消費の冷え込みが継続。
ブラジル	業務用チョコレート ・外食向けの販売が好調に推移し、2023年4月稼働のハラルド第2工場もフル生産。
東南アジア	業務用チョコレート ・インドネシアでは冷菓・流通菓子向け、豪州では製パン向けの販売が堅調。
中国	乳化・発酵素材 ・景況感悪化の影響があるが、徐々に回復傾向。
欧州	業務用チョコレート ・ギフト向けの需要が堅調に推移。

IR補足①：主要製品群の販売数量推移（前年同期比）

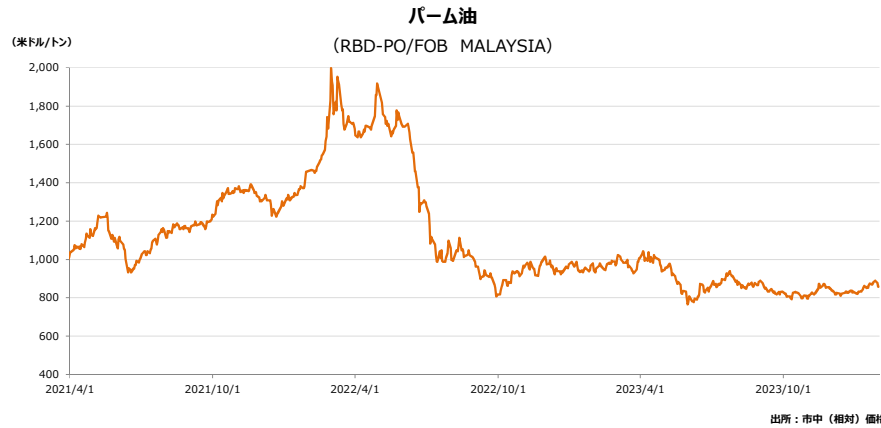
セグメント	エリア	製品群	2021年度 実績							2022年度 実績							2023年度 実績							2023年度 3Qポイント
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	
植物性油脂	日本	チョコレート用油脂	96%	102%	99%	102%	98%	100%	100%	111%	106%	108%	91%	98%	94%	100%	92%	91%	91%	102%				流通菓子向けの減少が一巡し、前年同期比では増加。
	米州		89%	112%	99%	100%	102%	101%	100%	113%	94%	103%	100%	77%	87%	96%	82%	91%	86%	116%				低価格帯の流通菓子向けの販売が伸長。
	東南アジア		93%	98%	95%	96%	103%	99%	97%	107%	105%	106%	84%	88%	86%	95%	91%	87%	89%	102%				流通菓子向けの減少が一巡し、前年同期比では増加。
	中国		72%	77%	75%	54%	63%	57%	66%	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3				
	欧州		180%	153%	164%	135%	104%	118%	137%	109%	70%	88%	69%	80%	75%	81%	84%	124%	102%	122%				前年同期は顧客引取遅れ等で低調も、今期は回復傾向。
	合計		101%	110%	106%	102%	101%	102%	103%	108%	93%	100%	86%	85%	85%	92%	88%	96%	92%	108%				
業務用チョコレート	日本	チョコレート (カカオ製品含む)	114%	106%	110%	104%	97%	101%	105%	98%	96%	97%	93%	95%	94%	96%	97%	101%	99%	101%				土産向け、冷菓向けが伸長。
	米州(ブラジル)		218%	123%	147%	102%	121%	111%	123%	112%	105%	108%	100%	102%	101%	104%	118%	110%	113%	109%				外食向けの販売が堅調。
	東南アジア		117%	110%	113%	106%	106%	106%	109%	105%	109%	107%	103%	112%	108%	107%	107%	109%	108%	110%				冷菓や製パン向けの販売が堅調。
	中国		115%	83%	95%	106%	77%	93%	94%	77%	103%	91%	87%	110%	97%	94%	112%	76%	89%	98%				流通菓子向けの販売が伸長したものの、景況感悪化の影響があり減少。
	欧州		152%	125%	137%	152%	129%	139%	138%	120%	129%	125%	114%	111%	112%	118%	119%	106%	112%	107%				ギフト市場向けの販売が好調。
	合計(ブラマー除く)		133%	112%	120%	106%	108%	107%	113%	104%	105%	104%	98%	103%	100%	102%	108%	104%	106%	106%				
	ブラマー		106%	108%	107%	96%	98%	96%	101%	95%	92%	94%	87%	94%	90%	92%	84%	89%	86%	94%				消費の冷え込み等により減少。
	合計(ブラマー含む)		116%	110%	113%	100%	103%	102%	107%	99%	98%	98%	93%	98%	96%	97%	95%	96%	96%	100%				
乳化・発酵素材	日本	クリーム	119%	108%	113%	104%	102%	103%	108%	97%	106%	101%	104%	105%	104%	103%	108%	107%	107%	110%				外食向けの販売が堅調。
		マーガリン ショートニング	102%	98%	100%	98%	91%	94%	97%	104%	106%	105%	101%	104%	103%	104%	100%	99%	99%	96%				顧客商品の量目減の影響で、流通菓子向けの販売が減少。
	東南アジア	クリーム	157%	72%	105%	79%	124%	97%	101%	84%	134%	105%	86%	94%	90%	98%	89%	74%	81%	126%				前年度からの反動増。
	中国	マーガリン ショートニング	118%	94%	105%	121%	117%	119%	112%	124%	80%	102%	73%	83%	77%	89%	73%	118%	90%	93%				景況感悪化により減少。
	フィリング	144%	111%	126%	123%	115%	119%	122%	88%	92%	90%	87%	87%	87%	88%	94%	94%	94%	104%				新規顧客への拡販により販売数量が増加。	
大豆加工素材	日本	大豆たん白素材	106%	103%	104%	102%	102%	102%	103%	96%	98%	97%	95%	92%	93%	95%	100%	97%	98%	104%				中食向けの販売が回復。
		大豆たん白食品	107%	96%	102%	100%	99%	99%	100%	105%	96%	101%	95%	94%	95%	98%	97%	91%	94%	92%				給食、宅配向けの販売が減少。
		機能剤	103%	99%	101%	99%	99%	99%	100%	87%	110%	97%	108%	120%	114%	104%	84%	86%	85%	95%				飲料向けは堅調も、中食向けの販売が減少。

*1:製品区分の見直し等により、過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき記載をしております。

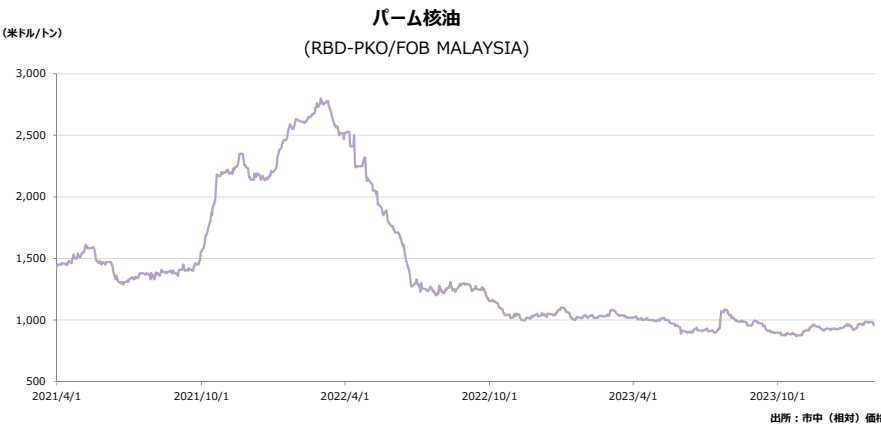
*2:2022年度第4四半期に決算期変更した会社については、前年同月比で比較しております。

*3:チョコレート用油脂の中国について、数量僅少のため非開示。

IR補足②：主要原料チャート（2024年1月末まで）



【市況】
減産期に入り、天候懸念はあるものの底堅く推移。
強材料：エルニーニョなどの天候懸念による減産懸念。
弱材料：世界経済の先行き不透明感。中国・インド等の需要動向。



【市況】
天候懸念はあるが、価格は安定的に推移。
強材料：天候懸念による生産量への影響。世界の消費量の回復。
弱材料：高水準な在庫量。



【市況】
投機筋の積み上げ等により価格の上昇が継続。
強材料：アイボリーコーストやガーナの着荷数量減少、天候要因による減産懸念。
弱材料：インフレ、利上げによる需要減。相場の過熱感。



【市況】
南米での良好な天候が予報されたことが弱材料となり価格は下落。
強材料：堅調な米国搾油需要。
弱材料：南米大豆産地における降雨予報、豊作期待。中国経済悪化の懸念。

IR補足③：主なトピックス、ピックアップ

●2023年度 主なトピックス（日付は不二製油グループ本社または不二製油（株）WEBサイトでの公開日）

日付	Topics	日付	Topics
2023.4.3	「不二製油グループ憲法」ビジョンを改定	2023.10.30	統合報告書2023（中国語版）を公開
2023.4.10	連結子会社の固定資産譲渡に関する契約締結のお知らせ	2023.11.8	植物性ラーメン新ブランド『veJin』にMIRA-Dashi®およびプライムソイミートが採用
2023.4.24	トルコ・シリア地震の緊急支援について	2023.11.13	豆乳クリームバター「ソイレール」が第53回食品産業技術功労賞を受賞
2023.5.11	(株) c o t t a と共同で新ECメディア「cotta tomorrow」を立ち上げ	2023.12.22	サステナブル・オリジン 2021/2022 レポートを公開
2023.5.22	G7 広島サミットに一風堂と不二製油が共同で出展	2024.1.25	連結子会社による合併会社設立に関するお知らせ
2023.8.30	サステナビリティレポート2023を公開		
2023.9.6	MIRA-Dashi®C400発売開始のお知らせ		
2023.9.7	不二製油 健康白書2023発行		
2023.9.8	植物性食品のおいしさ向上への官能評価の活用 -動物性・植物性とんこつ(風)スープのおいしさの違いを明らかに-		
2023.9.8	統合報告書2023を公開		
2023.9.29	統合報告書2023（英語版）を公開		
2023.10.27	サステナビリティレポート2023（英語版、中国語版）を公開		

●ピックアップ

植物性ラーメン新ブランド『veJin』に採用

不二製油（株）が製造・販売する「MIRA-Dashi®」および「プライムソイミート」が（株）D.K Internationalが立ち上げる植物性素材だけを使用したラーメン専門店の新ブランドTokyo vege ramen『veJin（ベジン）』の植物性ラーメンに採用されました。白湯風味の MIRA-Dashi®はスープベースに、プライムソイミートはチャーシューに使用しています。



サステナブル・オリジン 2021/2022 レポートを公開

不二製油（株）はサステナビリティ調達活動の一環として、主原料であるカカオのサステナビリティ調達支援プログラム「サステナブル・オリジン」を導入しています。2021/2022年の活動レポートを不二製油（株）コーポレートサイトに公開しました。
https://www.fujioil.co.jp/pdf/SOreport_2021_2022.pdf



SUSTAINABLE ORIGINS

連結子会社による合併会社設立に関するお知らせ

不二製油グループ本社の連結子会社であるフジオイルアジア(シンガポール)において、マレーシアのパーム油・パーム核の製造会社Johor Plantations Group Berhad(マレーシア)と持続可能なパーム油を原料とした高付加価値のパーム油製品を製造・販売する合併会社JPG Fuji Sdn Bhd（仮称）を設立することを決定しました。
トレーサブルで持続可能なパーム油の需要は昨年欧州市場を中心に拡大していますが、日本市場においても徐々に関心が高まってきており、今後の需要増加が予想されます。当社グループはトレーサブルで持続可能なパーム油の提供を通して、世界の食と健康の課題解決に取り組み、社会に貢献してまいります。